

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	ピロリ菌CagAによる「Hit and Run」発がん機構の解明とその制御
研究代表者	畠山 昌則（東京大学・大学院医学系研究科・教授） ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>応募者は、ピロリ菌由来 CagA 蛋白質による胃がん発生に関する研究を世界に先駆けて推進し、CagA による SHP2 の活性化、PAR1 との相互作用による細胞極性の攪乱、Wnt 活性化による上皮細胞リプログラミングなど、国際的に高く評価される最先端の研究成果を次々と報告している。</p> <p>本研究は、これまでの研究を基盤としながらも、「Hit and Run」という新たな概念を取り入れて、ピロリ菌感染から CagA 非依存的な胃がん形成機構を一体的に解明しようという、先駆的な取組みが計画されている。また胃がんのみならず感染がん全体の発がん機構解明への貢献も期待され、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>